

「100歳大学基本理念の確認」

一般財団法人健康・生きがい開発財団 副理事長

國松 権左衛門

1, 「人生100歳時代の到来」の意味と課題

* 人生100歳時代は「世界初」&「人類の歴史初」の「長い老後の初体験」

=「40年フレイルへの挑戦」

* 世界に「先進事例無し&モデル無し」の新時代

=今までの日本は世界の先進モデルの応用と改良

=国の指導と支援で課題解決

* 日本が「100歳人生の老後安心モデル創り」に挑戦する新しい時代

2. 「100歳大学のねらい」の再確認

* 「老いの生き方の基礎、基本を体系的に学ぶ仕組み」の確立

= 成長のための学習システムと同様に「老いの生き方を学ぶ義務教育」の確立

* 「シニアの健康長寿づくりと仲間づくりの仕組み」の確立

= 長い老いには、「自覚と努力の継続がカギ」

= 継続には「目標」と「褒められる」と「仲間との競争と励まし」が必須

* 「行政と高齢市民のコラボ」による「自己の健康長寿と老後安心のまちづくり」

* 「シニアによる地域包括ケアシステム」の確立

3. 「介護と医療による対処療法の福祉」から「学習による予防の福祉」へ

* 介護・医療の福祉は、「対処療法の福祉」

* 学習による福祉は、「予防の福祉」

* 自己実現による「健康長寿と幸せ老後」の実現の仕組みづくり

* 「対処療法の福祉」から「予防の福祉」への転換

4. 100歳大学の創設は、「人生100歳時代の新しい自治の実践」

* 自治体の自覚と努力がカギ

=自治体トップの自覚と実行=議員の自覚と認識=市民の理解と認識

* 人生100歳時代の「新しい自治の実践と確立」